

V-7

テーマパークの舗装について —舗装材調査—

大成ロテック㈱ 正会員 水野 政純
大成ロテック㈱ 正会員 田村 敏宏
東京農業大学 正会員 牧 恒雄

はじめに

近年、東京ディズニーランドをはじめとするテーマパークや、都市の再開発と関連させたテーマエリアが各地でつくられている。これらの施設では、人々に夢を与え、快適で楽しい時間を過ごしてもらうための空間づくりや、建物・遊技施設などに様々な工夫が行われている。しかし、これらの施設以外に、人々の動線を作り出す道路は重要な施設で、ここに使われる舗装材は、施設のコンセプトを考え材質や色彩、デザインなどが十分に吟味され、安全で利用者に快適さを感じさせる「人にやさしい舗装」でなければならない。本研究は、現在営業しているこれらの施設について、使われている舗装材を中心に調査し考察したものである

調査方法

調査方法は、現地踏査とアンケートによる舗装材の調査を行った。現地踏査は、現地の主動線や副動線、施設周辺に使われている舗装の材質、形状、色彩、表面仕上げ等を調査した。アンケートによる調査は、施設担当者に面会し、敷地面積や舗装面積、テーマ性、施設内容、入場者数、平均滞在時間、利用者の園内での動き、舗装材の選定理由、舗装材の使い分けの理由、維持管理方法等聞き取り調査をした。尚、調査した施設は27施設で、これらをテーマごとに分類したものを図-1に示す。

調査結果及び考察

調査した施設を全域において舗装材を分類し、まとめると、表-1のようになる。これらの施設ではアスファルト系やブロック系が多く使われており、天然の材料を使った施設も多い。これを、面積的に大きな割合を占める主動線について、テーマ別、材料別、色彩別に集計すると表-2のようになる。また、1施設当たりの舗装材の平均種類数を図-2に示した。舗装の色彩は、全体的に赤系、黄系が多く使われているが、これは、レンガ色やベージュ色といった比較的明るい色彩が好まれる傾向があるためと思われる。テーマ別に見ていくと、③歴史村型に使われる材料の種類色彩が少ないのは、コンセプトによる空間の創造が単一化されているためだと思われる。⑥水族館・動植物園型の施設では、ブロック系が多く使われている。これは、施設のある位置が都市の中心部にあったり、建物にテーマがあり、建

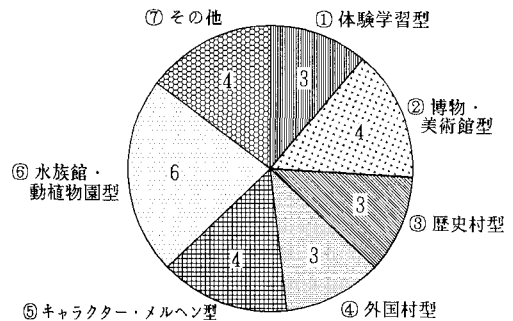


図-1 テーマ別調査件数

表-1 舗装材分類及び調査件数

舗 装 材 分 類		調査件数
系	舗 装 材	
Ⅰ. アスファルト系	アスコン（黒）	9
	アスコン+塗料塗布	28
	脱色アスコン	5
	カラーアスコン（顔料）	6
	半たわみ性（カーベスト）	8
	小 計	56
Ⅱ. コンクリート系	コンクリート	2
	洗出しコンクリート	2
	カラーコンクリート+型枠押付	9
	透水性コンクリート	4
	小 計	17
Ⅲ. ブロック系	インターロッキングブロック	41
	レンガ	15
	擬石平板・コクリト平板等	6
	タイル	6
	小 計	68
Ⅳ. 樹脂化成品系	砂利+樹脂・人工骨材+樹脂	3
	ゴムチップ	1
	人工芝	2
	小 計	6
Ⅴ. 天然材料系	自然石	26
	土・たたき	7
	砂利敷き	10
	木レンガ・木製デッキ	7
	小 計	50
合 計（延べ件数）		197

物景観を考えた舗装材選びが行われているものと思われる。これらの施設では、コンセプト以外にも立地条件や施設景観を考慮した舗装材選びが行われているといえる。歩行距離が長い⑤キャラクター・メルヘン型の施設では、アスファルト系の舗装材、特にアスコンに塗料を塗布した舗装が多く使われている。これは、表-3に示した舗装材を使い分ける理由に、ゾーニングを挙げた施設が多いことからブロック系の舗装材よりもアスコンに塗料を塗布した舗装の方が色彩によるゾーニングを行い易いことと、舗装面積が比較的大いため、舗装材の選定理由として、コスト面を重視した結果であると思われる。また、表-4に示す舗装材の選定理由を見ても解るように、コストを理由に挙げた施設が最も多く、次にデザインを理由に挙げた施設が多い。一般的傾向としては、使い分け理由がデザイン優先の場合は、ブロック系の材料が選択され、ゾーニング優先の場合は、アスコンに塗料を塗布する舗装が選択されている。おわりに

今回の調査では、舗装材の選定が建設コストやテーマ性を優先して行われていることが分かったが、リピーターの増加や利用者が長時間滞留

することを必要としているこれらの施設では、利用する人々の快適性や安全性などの観点から舗装材を選定することが必要であるし、我々もこのような観点の舗装材の研究開発を行うことが重要であると考え。終わりに、アンケート調査にご協力いただきました各テーマパークの施設担当者の皆様に深く感謝の意を表します。

参考文献

総合ユニコム編：月刊 レジャー産業 資料NO.321、総合ユニコム、1993.6

伊藤正視：人が集まるテーマパークの秘密、日本経済新聞社、1994.1.12

表-2 主動線で使用されている舗装材・色

単位：件数

テーマ性分類	舗装材の種類数					舗装材の色彩数							
	I	II	III	IV	V	赤系	黄系	緑系	青系	紫系	白系	黒系	灰系
①体験学習型	6	0	9	0	0	6	2	2	1	0	2	0	2
②博物・美術館型	7	4	6	0	2	6	5	1	1	1	2	1	2
③歴史村型	3	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	2
④外国村型	2	0	8	0	2	2	3	1	1	0	1	2	2
⑤キャラクター・メルヘン型	11	4	2	0	0	3	2	4	2	0	0	3	3
⑥水族館・動植物園	3	0	12	0	2	5	2	0	1	0	2	3	4
⑦その他	1	1	3	0	4	0	5	0	1	0	0	1	2
合計	33	9	40	0	11	22	21	8	7	1	7	10	17

※I：As系、II：コンクリート系、III：ブロック系、IV：樹脂化成品系、V：天然材料系

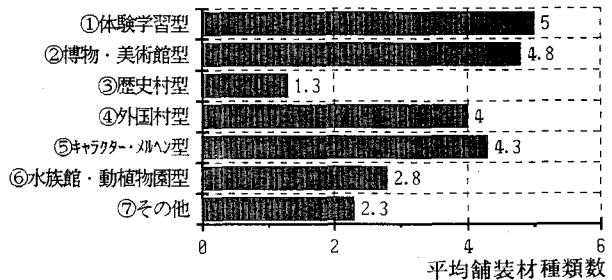


図-2 テーマ別平均舗装材種類数

表-3 舗装材使い分け理由

舗装材使い分け理由	件数
ゾーニング	10
デザイン	5
テーマ性の追求	1
歩車道区分	4
建物周辺の差別化	2
その他	2

複数回答

表-4 舗装材選定理由

舗装材選定理由	件数
歩行性	5
デザイン	7
コスト	8
メンテナンス	3
耐久性	1
安全性	1
その他	2

複数回答